



2026年1月4日

※サムスン電子(韓国本社)配信のコンテンツを翻訳した内容です。

※使用できる機能は国・地域・OS バージョン、デバイスのモデルなどによって異なります。

<報道関係者各位>

## 【CES 2026】Samsung、CES 2026 「The First Look」で “AI ライフパートナー”を提案

次世代 AI 搭載デバイスと新たな体験を、特別展示会で1月7日まで公開

サムスン電子（韓国本社、以下 Samsung）は、2026 年 1 月 4 日にラスベガスの Wynn ホテル（Wynn Las Vegas）内 Latour Ballroom で開催した CES®2026 イベント「The First Look」において、“AI ライフパートナー”というビジョンを発表しました。本イベントでは、Samsung の哲学である研究開発（R&D）や事業運営からユーザーエクスペリエンスに至るまでをつなぐ基盤としての AI 活用に焦点が当てられました。

サムスン電子代表理事 CEO 兼 DX（デバイスエクスペリエンス）部門長の TM Rho は基調講演で、AI 分野における Samsung の取り組みと強みを表すリーダーシップについて説明しました。また、AI を活用した多様なエコシステムを通じて、日常生活でユーザーに寄り添う真の AI パートナーアクセスを提供していく考えを示しました。これらにより、ユーザーは基本的な機能だけでなく、日常生活で新たな価値を生み出す体験・機会を得ることができます。

TM Roh は「Samsung はモバイル端末やビジュアルディスプレイ製品、家電、サービスを連携させ、一体感のあるパーソナル体験を構築してまいります。グローバルなエコシステムのもと、各分野に AI を取り入れることで、日常でより実感できる AI 体験の提供をリードしていきます。」と述べました。

### ■エンターテインメントとしてのパートナー：単なる視聴を超えた体験へ

サムスン電子社長兼ビジュアルディスプレイ（VD）事業部長の SW Yong と、サムスン電子アメリカ（SEA）同事業部チーフマーケティング・パートナーシップチーム長の Sukhmani Mohta が登壇し、Samsung のディスプレイが持つ高いハードウェア性能と AI による映像技術を融合させることで、テレビを「観る」だけにとどまらない真のエンターテインメントパートナーを提供する方法を紹介しました。Samsung はテレビ業界を 20 年以上にわたり牽引してきた実績と知見をもとに、ユーザーがテレビと全く新しい方法で対話できる AI 搭載テレビのフルラインアップを構築しました。

ラインアップの中核となるのが 130 インチの Micro RGB テレビです。大画面化と画質の両面で大きな進化を遂げ、これまでにない色彩表現と解像度を実現します。Samsung のテレビ史上最も広帯域か

つ精細なスペクトルを誇る本製品は色彩の新たな時代を切り開きます。Timeless フレームデザインは映像の乱れを最小限に抑え、控えめな優雅さで映像を際立たせた設計となっています。Micro RGBには微小サイズの RGB 光源を採用し、かつてない高画質を実現。赤・緑・青のダイオードがそれぞれ独立して発光することで、最も自然で豊かな色彩を表現します。さらに Micro RGB AI Engine Pro がRGB カラーを緻密に制御し、シーンごとの圧倒的な鮮明さを引き出します。

視聴体験をさらに進化させるために採用した Vision AI Companion (VAC) <sup>\*1</sup> は AI 技術を活用し、家庭内のさまざまなシーンで視聴・食事・気分を向上させるエンターテインメントパートナーとしてユーザーに寄り添うエンターテインメント体験を提供します。これによりユーザーは視聴する作品や食事のメニュー、聴く音楽についての提案を受け取ることができ、テレビを“観る”ことにとどまらない体験へと広げていきます。

※1 本機能は一部の地域および対応モデルで利用できます。利用可否や対応機能は地域および視聴条件により異なる場合があります。音声コマンドは英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、韓国語に対応しますが、すべてのアクセント、方言、表現を認識するものではありません。また本機能は AI で生成されたコンテンツを提供するため、正確性は保証されません。表示結果を確認のうえご利用ください。本機能の利用には指定の Bluetooth リモコン (TM2660H/TM2661H) が必要です (モデルによっては別売)。一部モデル (M70H/U800H) に同梱されるリモコンは音声認識に対応していません。Mobile Quick Remote または別売りの Bluetooth リモコンが必要となります。なお、AI ボタン非搭載のリモコンの場合は AI ボタンまたはホームボタン (長押し) から本機能にアクセスできます。

Samsung は視聴体験をパーソナライズできる直感的なモードも提供しています。サッカーファン向けの AI Soccer Mode Pro は、AI による映像・音響の自動調整により、スタジアムの臨場感を追求した試合観戦体験を実現します。また AI Sound Controller Pro では歓声、実況、BGMなどの音量を個別に調整でき、テレビ番組や映画を好みに合わせた音で楽しむことができます。ユーザーは音声で指示するだけで VAC 対応テレビが状況に応じて操作を実行します。VAC は Micro LED、Micro RGB、OLED、Neo QLED、Mini LED、UHD TV などの対応モデルに搭載されます。

さらに VAC は番組ジャンルを問わず、ライフスタイル全体の体験価値も高めます。たとえばテレビで見た料理のレシピを音声で尋ねるだけで検索でき、最新の情報をもとに健康やフィットネスの目標に沿った提案を行います。加えて、マルチデバイス機能も備えており、提案したレシピを今回発表した無線で使用できる移動型スクリーン The Movingstyle などへ直接送信できます。エコシステムを完全に統合することでマルチデバイス体験を実現します。

Samsung は世界のサウンドバー市場で 11 年連続トップの実績を有しています。2026 年は統合エコシステムをさらに拡充するため、この度、新たに 2 機種の Wi-Fi スピーカー Music Studio 5 | Music Studio 7 を発表しました。これらのモデルは、より幅広いサウンドシステムの組み合わせに対応し、音響・映像体験を高めるとともに、空間の美観にも配慮した設計になっています。デザインは著名デザイナーの Erwan Bouroullec 氏が手がけ、音楽とアートに共通する普遍的なシンボルから着想を得たドットをモチーフに、Samsung の特徴的なデザイン言語に基づくタイムレスなコンセプトを採用しています。

また、Samsung は住空間になじむ新製品も多数発表しました。新たな超薄型 OLED テレビ S95H は、洗練されたベゼルによりアートギャラリーのような優雅な佇まいを実現しています。また、ポータブルプロジェクターの新製品 The Freestyle+ は VAC に対応し、壁や天井はもちろん、角やカーテンな

どの不均一な面にも映像を投影できます。

2026 年モデルのテレビラインアップ<sup>※2</sup>は HDR10+ ADVANCED に対応し、輝度の向上、ジャンルに応じた最適化、動きの滑らかさを高める処理、高度なローカルトーンマッピングなどにより、映像品質とゲーム体験をさらに向上させます。

※2 HDR10+ ADVANCED は以下のモデルでご利用いただけます。QN990H、R95H、S95H、S90H、R90H、S85H、LS03HW、LS03H、QN80H

主要な OTT 事業者で HDR10+ の採用拡大に伴い、Samsung は 2026 年モデルのラインアップにおいて、HDR10+ ADVANCED を初めて導入するとともに、Samsung の新たな空間音響技術「Eclipsa Audio」も搭載します。

さらに、Samsung はこれまで最も先進的な **Odyssey** ゲーミングモニターのラインアップも発表しました。解像度、リフレッシュレート、没入感の高い映像表現をさらに押し広げる新モデル 5 機種を投入します。Samsung 初の 6K・3D 対応の **Odyssey G9** を中心に、次世代の **Odyssey G6** および新たな **Odyssey G8** の 3 モデルを含む 2026 年のラインアップは、ゲーマーやクリエイター向けに世界初のディスプレイ技術を初披露します。

ディスプレイ技術の革新を支えるのが、これまで最も高性能な **Tizen OS** です。ユーザーは最大 7 年間の Tizen OS アップグレードを利用でき、購入後もテレビが継続的に進化する体験を保証します。

## ■ホームパートナー：毎日を快適に過ごすためのスマート家電

サムスン電子副社長兼デジタルアライアンス（DA）事業部長の Cheolgi Kim と、サムスン電子アメリカ（SEA）同事業部 IMC グループ長 Elizabeth Anderson は、家電の提供にとどまらず、日々の家のストレスを解消する「真のホームパートナー」へと進化していく Samsung のビジョンを紹介しました。また Cheolgi Kim は、2025 年 12 月時点で **SmartThings** の利用者が 4 億 3,000 万人を超えたことを発表し、他ブランドとは一線を画す圧倒的な規模とユーザー理解の深い洞察力が Samsung の強みであると説明しました。

「真のホームパートナー」を具現化する製品の一つが **Samsung Family Hub** です。家庭の中心的な存在である AI 搭載冷蔵庫は、Google Gemini<sup>※3</sup>を搭載した AI Vision へアップグレードし、AI 時代の未来の生活を再定義します。この進化により、AI Vision は食品認識における既存の限界を打破します。冷蔵庫に入れた食材を取り出した食材をシームレスに追跡することにより、献立の計画や食材管理をこれまで以上にシンプルに効率化します<sup>※4</sup>。Samsung Family Hub は、これまでに CES Innovation Awards を 10 回受賞しており、Samsung の AI 搭載冷蔵庫は直近 3 年連続で同賞を受賞しています。

※3 Google Gemini は Google LLC が提供しています。サービスの提供状況、対応機能、精度は国・言語・端末モデル・OS / One UI のバージョンにより異なる場合があります。ご利用は 18 歳以上に限られます。機能によっては追加のアプリ設定が必要となる場合があり、サブスクリプションにより利用できる機能や結果が異なる場合があります。

※4 AI Vision とは冷蔵庫内部カメラと AI による処理を指し、食材を認識する機能です。本機能の利用には Wi-Fi 接続および Samsung アカウントが必要です。認識できない食材は不明なアイテムとして表示される場合があります。AI Vision は冷凍庫内の食材を識別・一覧化することはできません。認識には AI モデルを用いており、性能向上のために定期的に更新される場合があります。表示内容の正確性を確保するため、ユーザーによる確認および手動での修正が必要となる場合があります。カメラ作動中は赤色のライトが点灯します。ユーザーが映り込む場合がありますが、食材以外の部分は自動的にぼかされます。

また、ゲーム感覚で使える「What's for Today?」<sup>※5</sup>（今日の献立は？）機能により、対象の冷蔵庫では、庫内の食材に基づくレシピ提案に加え、ランダムな提案も行われ、「何を作るか」を決めるストレスを軽減することができます。レシピを選択すると、SmartThings Food 上に手順が表示され、ステップごとにガイドを確認しながらすぐに調理を始められます。さらに、選択したレシピは連携する調理家電へ送信でき、調理の準備もスムーズに進められます。加えて Video to Recipe<sup>※6</sup> は、さらにシンプルで、おすすめの料理動画の表示や動画内容を分かりやすい手順に変換することが可能です。動画を一時停止したり巻き戻すことなく、調理しながら手順を確認でき、調理体験をさらに簡単にします。

※5 一部機能の利用には Wi-Fi 接続および Samsung アカウントが必要です。

※6 一部機能の利用には Wi-Fi 接続および Samsung アカウントが必要です。

さらに Samsung は、ユーザーの食生活のパターンを週単位で振り返る新しいレポート機能 FoodNote<sup>※7</sup> を発表しました。この機能は最も使用頻度の高い食材やレシピの提案、補充が必要な食材などをまとめて提示し、日々の食材管理をサポートします。また、Now Brief<sup>※8</sup> は Samsung Family Hub の画面上で利用できるウィジェットを拡充し、Voice ID<sup>※9</sup> により家族それぞれを識別して、パーソナルな情報を表示することが可能になりました。これらの機能により、一週間を通じて家庭内のさまざまな場面で役立つ情報や気づきを提供します。

※7 一部機能の利用には Wi-Fi 接続および Samsung アカウントが必要です。

※8 一部機能の利用には Wi-Fi 接続および Samsung アカウントならびに Samsung／Google／Microsoft アカウントが必要となる場合があります。各デバイスでは同一のログインアカウントをご利用ください。利用可能なアプリは国・地域・通信事業者・ネットワーク環境・端末により異なる場合があり、予告なく変更されることがあります。

※9 各ユーザーはあらかじめ画面搭載家電（スクリーン家電）で Samsung アカウントの登録が必要です。1 台のデバイスにつき最大 6 つのアカウントを登録できます。Voice ID の利用には Bixby の利用規約への同意が必要です。Voice ID の登録は一部の家電、テレビ、モバイル端末で利用でき、1 アカウントにつき登録できる音声は 1 種類です。

ランドリールーム向けには Bespoke AI Laundry Combo が大量の洗濯物を洗濯機から乾燥機へ移し替える移動作業の手間を省き、家庭内の大きな負担を軽減します。今作は、より短時間で洗濯できるスーパー・スピードコースの強化に加え、乾燥性能も向上しました。また、新製品 Bespoke AI AirDresser は、衣類のケアに関する日常的な悩みに対応します。強力な送風とスチームを用いてシャツのしわを整えることができる Auto Wrinkle Care（自動しわケア）機能を備え、ユーザーはシャツを掛けて待つだけでよく、忙しい朝の負担を軽減します。

ほかにも、家のさまざまな場所で Qualcomm Dragonwing™ プロセッサーを搭載したロボット掃除機 Bespoke AI Jet Bot Steam Ultra が掃除をさらに進化させます。本製品は Active Stereo 3D Sensor により AI が液体を認識し、コーヒー や ジュースなどの液体<sup>※10</sup> に加え、水のような透明な液体も認識できます。カメラは室内移動のナビゲーションをするだけでなく、見守り用途にも活用でき、外出時にペットの様子や不審な動きがあった場合にユーザーへ通知することも可能です<sup>※11</sup>。さらに、よりスマートになった Bixby<sup>※12</sup> によって、ユーザーがロボット掃除機に自然な言語で話しかけて簡単に操作でき、日常の家事をよりスムーズに行うことができます。こうした高度な接続性と統合に

よって包括的な AI 体験が評価され、Samsung の Bespoke AI 家電は CES Innovation Award を受賞しました。

※10 液体のこぼれは、水やジュースなどの着色または透明な液体で、7cm×7cm（容量 15ml）以上のものを指します。識別制度は、液体の大きさや床の模様や色、直射光・反射光、液体の形状などの環境により影響を受ける場合があります。床面に過剰な量の液体が残った場合、二次汚染を引き起こす可能性があります。

※11 本機能の利用には Android/iOS 対応の SmartThings アプリのダウンロードが必要です。あわせて Wi-Fi 接続および Samsung アカウントが必要となります。認識対象は猫および犬に限られます。ペットの姿勢や位置により認識が制限される場合があります。また、動物の種類や飼育環境によって認識性能が異なる場合があります。本機能は一般的な視覚的特徴に基づきペットの存在を検知するもので、個体識別はできません。各家電は SmartThings アプリ上で、ペット対応に最適化する設定が必要です。

※12 Bixby は Samsung の IoT 向け音声アシスタントです。Bixby の提供状況は国・地域により異なる場合があります。Bixby は一部の言語および特定のアクセント・方言に対応しており、韓国語、英語（米国／英国／インド）、スペイン語（メキシコ／スペイン）、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語（ブラジル）に対応します。ユーザーインターフェースは端末により異なる場合があります。Bixby の機能およびコンテンツプロバイダーの提供状況は国、通信事業者、言語、端末モデル、OS バージョンにより異なる場合があります。利用には Samsung アカウントでのログインとデータ通信接続（Wi-Fi またはモバイルデータ通信）が必要です。

さらに、Samsung は Hartford Steam Boiler (HSB) との業界初の協業により、スマートホーム体験における実質的で有意義な節約を実現します。この発表では HSB 社社長兼 CEO の Greg M. Barats 氏も登壇し、本協業について説明するとともに、SmartThings に接続したスマート家電の活用により、保険料の削減につながる可能性があることを紹介しました。Samsung は本協業を通じて、ユーザーの安心の強化とコスト削減の両面で価値提供を進めます。本協業は、2025 年に米国で実施したパイロットプログラムの成果を受け、今後は米国内で対象州を拡大するほか、世界の他の地域の大手住宅保険会社にも展開を進める予定です。

## ■ケアパートナー：受け身のリアクティブケアから予防・先回りのプロアクティブケアへ転換

最後に、Samsung Research America (SRA) の副社長兼デジタルヘルスチーム長の Praveen Raja が登壇し、同社が目指すインテリジェントケアの長期ビジョンを紹介しました。Samsung は統合されたデバイスエコシステムを基盤に、ケアを「リアクティブニーズ」から「プロアクティブニーズ」へと進化させる考えを示しました。AI を活用することで、スマートフォンや家電、ウェアラブルデバイスなどの接続デバイスが連携し、健康上の懸念を未然に察知して予防につなげるのに役立ちます。

具体的には、パーソナライズされたヘルスコーチングを提供し、運動や睡眠に関する実践的なアドバイスによって主要な慢性疾患のリスク低減を支援します。また、連携する冷蔵庫内の食材情報に基づき、適切なレシピを提案することも視野に入っています。さらに、異常の兆候やパターンを検知した場合にはユーザーに通知するとともに、Xealth プラットフォームを通じて医療提供者と健康データを共有し、オンライン診療につなげる仕組みを構築します。

そして、予防医療の重要性を踏まえ、Samsung は研究パートナーシップを通じて、認知症検知機能も拡張しています。ウェアラブルデバイスにより移動、発話、日常の活動状況などの微細な変化を捉え、長期的な認知機能の変化を示す可能性のあるサインを検出します。

こうした高度にパーソナライズされたエコシステムを支える基盤として、Samsung Knox と Knox Matrix があら

ゆるユーザーデータを保護します。AI が絶えず進化する中、Samsung Knox と Knox Matrix も同様に進化を続けています。Samsung のセキュリティシステムは AI 学習プロセスにおけるデータ保護をはじめ、レッドチーム分析によるモデル評価などを通じて、AI リスクを継続的に特定しています。

なお、CESにおいて、Samsung Exhibition Zone は 2026 年 1 月 4 日から 1 月 7 日まで一般公開されます。詳細は [Samsung Newsroom](#) をご覧ください。





- 「Samsung Galaxy」は Samsung Electronics Co., Ltd の商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、商品名、サービス名称等は、各社の商標または登録商標です。